

2025.10
季刊秋号
広報誌

ろうさいひろば

For Healthy Aging , nagasaki rosai hospital

～私たちはヘルシーエイジングに取り組んでいます～



はじめてのもみじ ©SASEBO

Contents

- ・ 新任のご挨拶 医事課長兼患者サポートセンター課長
- ・ 医療トピックス
- ・ 第33回長崎救急医学会学術集会を開催しました！
- ・ 健康フェスタ 2025 開催のお知らせ
- ・ 嚥下指導について②
- ・ 駐車場料金改定のお知らせ
- ・ 私の趣味「ウォーキング」
- ・ スタッフィンタビュー【vol.23】
- ・ 各科外来診療担当医師一覧表

理念

『勤労者と地域の皆様に良質な医療を提供します』

基本方針

1. 人権を尊重した患者中心の医療の実践
2. チーム医療に基づいた安全で専門的な医療の推進
3. 地域に根づいた急性期医療の提供
4. 早期社会復帰への支援
5. 予防医療による健康づくりへの貢献
6. 治療と仕事の両立支援及び産業保健活動の推進



独立行政法人 労働者健康安全機構

長崎ろうさい病院

Salutation

医事課長兼患者サポートセンター課長ご挨拶

新任のご挨拶

医事課長兼患者サポートセンター課長
門本 健一郎

日頃より長崎労災病院の医療連携に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。このたび、医事課長に就任いたしました^{かどもと}門本健一郎と申します。まだまだ学ぶべきことも多くございますが、地域の皆様とともにより良い医療環境をつくるため、全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私の簡単な経歴は、茨城県の鹿島労災病院を皮切りに、本部、浜松労災病院、富山労災病院、旭労災病院、九州労災病院、中部労災病院、総合せき損センター、そして長崎労災病院と9ヶ所目の勤務地となります。

当院では、令和7年3月17日（月）より、連携医療機関の皆様、患者さんの利便性向上を目的として、医療連携部門、入退院支援部門、医療相談部門、病床管理部門の4部門を集約した『患者サポートセンター』を新設し、運用を開始しました。今後、更に看護師や薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で連携し、入院前から入院中、退院まで見据えた切れ目のないサポートを行って参ります。

また、患者サポートセンターでは、各医療機関の先生方からのご紹介の患者さんには診療予約を行っており、当院で治療後、病状が安定した時点で逆紹介をし、かかりつけ医を持たない方については、地域の医療機関を紹介して、積極的に医療連携の推進を図って参ります。

紹介元の先生方と情報交換を行うことで、より良い医療サービスの提供に努め、地域完結型の医療を目指しております。

今後も皆様との対話を大切にし、互いの強みを活かした協力体制を一層強化しながら、患者さんのための安心できる医療の実現を目指して参ります。何かご意見やご提案などございましたら、どうぞ遠慮なくお知らせください。

これからも、地域の医療連携を支えるパートナーとして、皆様と共に歩んでいくことを心から願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

進化する腹腔鏡手術 — 体にやさしく、より精密に —



第二外科部長
吉野 恭平



開腹手術に比べて腹腔鏡手術は傷が小さく、術後の痛みが少ないことから、体にやさしい“低侵襲手術”として広く行われています。当院でも消化器外科を中心に導入し、患者さんの早期回復に役立ててきました。特にご高齢の方では、入院中に安静が長引くと体力が低下しやすいため、痛みが少なく早く歩き出せることは大きなメリットです。

一方で、腹腔鏡手術は決して容易な手術ではありません。拡大映像のもとで毛細血管の一本一本や、肉眼では見えにくい膜の構造を丁寧に確認しながら進める必要があり、開腹手術以上に繊細な操作が求められます。そのため時間を要しますが、安全で確実な治療につながる大切な工程です。

当院ではこうした手術の質をさらに高めるため、このたび最新の内視鏡システム「エリートⅢ」を導入しました。4Kの高精細映像で臓器や組織の細部をより鮮明に映し出すことができ、さらに特殊な光で細部を浮かび上がらせることで、神経や膜の境界といった微細な構造もより明瞭にとらえられるようになりました。これにより、より正確で安全な操作が可能となっています。

また、特殊な蛍光色素を使った観察も新たに取り入れました。手術の最後に腸をつなぎ合わせる“再建”の際に血流を確認できるため、術後合併症の一つである縫合不全を減らすことが期待できます。

これからも当院は、最新の技術と外科医の経験を組み合わせ、地域の皆さまに安心して受けていただける外科治療を提供してまいります。



2025

9/6

土曜日

第33回長崎救急医学会学術集会を開催しました！

第33回長崎救急医学会学術集会を、2025年9月6日(土)にアルカス SASEBO で開催しました。

長崎救急医学会は、長崎県内での救急医療の普及、発展に貢献することを目的として、平成5年(1993年)に発足した学会です。毎年「救急の日」、9月9日前後の土曜日に学術集会が開催されています。当院が学術集会を主催するのは、第9回(2001年)、第21回(2013年)に続いて3回目で、12年ぶりに担当させていただきました。

今回の学術集会は、テーマを「みんなで守る救急医療」としました。近年、地域社会の高齢化による高齢者救急搬送の増加や、救急医療を担う医師や看護師の不足のため、佐世保市の二次救急輪番体制の維持が年々難しくなっています。また、救急病院への軽症患者の夜間・休日受診の増加もその要因のひとつです。そこで、医療関係者や救急隊員だけでなく、一般市民の方を交え、救急医療体制を守るためにはどうしたらよいかを、みんなで考えたいとの思いでこのようなテーマにしました。そのため、長崎救急医学会の学術集会としては初めての企画ですが、パネルディスカッション「みんなで考えよう地域の救急」を市民公開講座として一般市民の方々にも参加していただきました。

当日は朝から晴天で暑い一日でしたが、学術集会開始時刻の午前9時50分には多くの参加者が来場され、最終的な学術集会の参加者は168名でした。一般演題として36題、ランチョンセミナー1題、パネルディスカッション／市民公開講座に4題、合計41演題の発表があり、熱心な討論が行われました。

一般演題は医師、看護師、救急隊員だけでなく、救急救命士、放射線技師、臨床工学技士、医師事務作業補助者、医学生からも発表がありました。内容は、症例報告、感染・災害対策、重症患者の管理、救急科・救急隊研修、多職種連携とタスクシフトなど多岐にわたりました。みんなで救急医療を守るだけでなく、救急医療を発展させるヒントが本当にたくさん含まれていました。

お昼のランチョンセミナーではサンドイッチをほおぼりながら、長崎記念病院泌尿器科・木原敏晴先生のお話を聴いて、小児の救急疾患である精巣捻転症への対応について勉強しました。

午後の一般演題が終了した後、市民の方々にも加わっていただきました。佐世保市総合医療センター・救命救急センター長の平尾朋仁先生の司会で、3時45分からパネルディスカッション／市民公開講座「みんなで考えよう地域の救急」が始まりました。佐世保市の医療政策課、消防局、二次救急病院、三次救急病院のパネリストが、それぞれの立場から救急医療の現状を発表し、いくつかの課題が見えてきました。難しい問題もありますが、佐世保市の救急医療を守るためには、救急のことを市民みんなで考え、行動していくことの大切さを共有できたことは大変意義があったと思います。1時間の予定が少し伸びましたが、パネルディスカッション／市民公開講座が終わり、午後5時に第33回長崎救急医学会学術集会の全日程を終了しました。

座長、演者をはじめ討論に参加いただいた皆様、暑い中、会場まで足を運んでいただいた市民の皆様により感謝申し上げます。

院長 酒井 英樹



○ 救急看護セミナー ○

クリティカルケア認定看護師 久保 智美

第33回長崎救急医学会学術集会にて、「みんなで強くなる！急変対応」のテーマでセミナーを行い、21名の参加がありました。今回のセミナーでは、現場で遭遇するような頭痛、発熱など症候別の急変対応について、救急看護・クリティカルケア認定看護師の講師陣のファシリテートのもと、グループで症例検討を行いました。臨床推論の流れで緊急度の判断、看護問題や看護実践についてのディスカッションや観察ポイントなどのレクチャーがあり、実践に活かせる内容であったと、参加者からも好評のセミナーとなりました。救急看護に興味を持っていただける機会となり、セミナーが開催できたことに感謝いたします。



ICU看護師 山口 恵美子

第33回長崎救急医学会学術集会に参加し、早期離床・リハビリテーションについて発表を行いました。ICUに入室する患者さんは、呼吸や循環など状態が不安定な方も多いですが、状態をアセスメントし、ICUへ入室した当日よりリハビリを開始しています。今回、多職種と連携してリハビリ内容を見直し、統一したリハビリを実施できるように整えました。退院後の生活を見据えて、患者さんが望むような日常に近づけるよう、今後も多職種と協力しながら取り組んでいきたいと思っています。

ICU看護師 石橋 明日香

当院は佐世保・県北医療圏において災害拠点病院に指定されています。ICUではチーム活動のひとつとして、火災・地震に関する知識と意識の向上を目的に、発災から避難までを想定した机上シミュレーションと実動訓練、知識向上のための1分間シミュレーションといった活動を続けています。今回、活動報告という形で発表の機会をいただきました。発表後は質問も多く、興味、関心の高い分野であることを実感しました。学会発表は初めての経験で、準備段階では何度も心が折れかけましたが、チームで協力して取り組み、よい経験になりました。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 本竹 由香里

私の演題は救急とは少しかけ離れてはいますが、急性期の取り組みというところで、「脳卒中患者におけるアクティモN Rを使用した早期活動への取り組み」という演題で発表させていただきました。アクティモは、以前はリハビリ時での使用が中心でしたが、現在は日常生活場面で移動手段として主にトイレ移動から開始し活用しています。脳卒中の患者さんは、麻痺や体幹バランスが悪い方が多く、車椅子への移動介助量が多い場合など、アクティモであれば介助量の軽減になりますが、同時に患者さんの体幹が鍛えられ、覚醒を促すことにつながることを発表を通して伝えることができました。経験を発表で伝えることができ、今後も患者さんが満足できるような看護に取り組んでいきたいと思っています。

2025

11

15

土曜日

長崎ろうさい病院 健康フェスタ2025開催!!

入場無料

受付：8時30分～
時間：朝9時～12時
場所：地下1階リハビリ室

令和7年11月15日(土)に、「長崎ろうさい病院 健康フェスタ2025」を開催いたします。どなたでも参加可能です。皆様のご参加をお待ちしております。

【問い合わせ先】長崎労災病院 総務課 Tel: 0956-49-2191 (代)

Topics

嚥下指導について

vol.2

食べ続けるために vol.2



言語聴覚士 田中 玲子

前回は飲み込む力を確かめるための簡単なテストを紹介しました。

今回は安全に食べるために注意することや気を付けたい食品等について紹介します。

安全な食べ方

1 環境を整えて食事に集中しましょう。
食事の時間を決める、口の中をきれいにす、テレビを消す、食卓の上を片付けるようにしましょう。

2 姿勢を整えましょう。
可能なら座位で、やや前かがみで顎を引き気味で。
高すぎないテーブルで、かかとが床につく位の椅子に座りましょう。

口から食べる生活を続けていくために、
食事中だけでなく、食事前後の習慣化も
必要です。



3 よく噛んでゆっくりと。
一口の量は少なめに、一口ずつゆっくりよく噛みましょう。
しっかり飲み込んでから次の一口を入れ、食べ物を飲み込むまではしゃべらないようにしましょう。

4 お口のケアで肺炎を予防しましょう。
口の中に食べ物を残さないように清潔を心がけましょう。

5 食後は座った姿勢でゆっくり過ごしましょう。
逆流を防ぐために、食べて2時間は横にならないように。

気を付けたい食品

1 固形と水分の混ざったもの 汁物、さらさらしたお粥など	3 パサパサしているもの 鶏のささみなど	5 口の中でバラバラになるもの クッキー、粉菓、とうもろこし、寒天など
2 噛み切りにくいもの こんにゃく、餅、イカやタコなど	4 繊維の多いもの ごぼう、キャベツなど	6 のどに張り付くもの 海苔、餅、ワカメなど
		7 刺激が強いもの 酢の物、キムチ等の辛いものなど



むせやすい方はとろみの使用もおすすめです。餡かけにするなど、工夫をすることで飲み込みやすくなる場合も多いです。

口から食べるという生きがいを失くさないよう、日頃から注意していきましょう。

駐車場料金改定のお知らせ

このたび、昨今の物価上昇やエネルギーコストの高騰、並びに駐車場設備の維持管理費の増加に伴い、駐車場料金を下記の通り改定させていただくこととなりました。

利用者の皆さまにはご負担をおかけすることとなり、誠に申し訳ございませんが、安全で快適な駐車環境の維持・改善を図るため、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■ 改定実施日 令和7年11月1日(土)～

■ 現行	外 来 患 者	4時間まで無料 4時間以降1時間毎100円
	お見舞い来院者	最初の30分無料 30分以降1時間毎100円
▶		
■ 改定後の料金	すべての来院者	
	最初の30分無料 30分以降1時間毎100円	

※ お問い合わせは総合案内・相談窓口(1階)までお尋ねください。

長崎労災病院長

Column

\ 私の趣味 /

ウォーキング

7 東病棟 山道 由香



私の趣味はピクミン活動をしながらのウォーキングです。

ピクミンとは、任天堂が展開するアプリでスマートフォンを持ち歩くことにより、半動物、半植物の小さな生物であるピクミンたちを誕生させていくものです。プレイヤーは実際に外出して歩数を稼がないとピクミンも誕生しないため、プレイヤーが毎日歩きかけになるというものです。

ピクミンの活動としてはピクミン部を発足し、メンバーと博多駅のピクミン列車を見に行ったり、広島のパクミンテラス in 宮島 SA に行ったりして活動を楽しんでいます。

ウォーキングは今年初めて、以前から挑戦したいと思っていたウォークラリーにピクミン部のメンバーと参加し、50km 完歩することができました。21 時に大村を出発し、翌日の 10 時過ぎに佐世保に到着しましたが、疲労感や足の痛みはあったものの、みんなで励まし合いながらゴールしたときの達成感は初めて味わうものでした。

ウォーキングには生活習慣病の予防・改善が見込まれること、また運動することで心肺機能の向上も期待できるといわれています。皆さんもピクミンたちと一緒にウォーキングを始めてみませんか？



Topics

スタッフインタビュー

vol.23

今回は、5 東病棟師長 池田 みどりさんにインタビューしました。



Q 5 東病棟は整形外科の病棟ですが、整形外科病棟ならではのことや大変なことがあれば教えてください。

A 5 東病棟は脊椎疾患の患者さんが多く入院されます。脊椎疾患は、身体の中核である脊髄や神経に関わるため、運動機能や感覚、排泄機能など、日常生活に直結する重要な部分に影響を及ぼします。手術前後の細やかな管理や、装具の着脱・指導など、看護援助を行い、体力的・精神的に大変な場面もありますが、患者さんが回復し、自分の足で歩けるようになった瞬間や、失われていた機能が戻ったときの笑顔を見ると、言葉にできないほどの達成感があります。患者さん一人ひとりの症状や背景、「思い」に寄り添うことを大切にしています。病気に向き合う患者さんが、少しでも前向きに、安心して治療に望めるよう、これからも丁寧な看護を心がけていきたいと思います。

Q 急性期の病院で働く看護師長として、患者さんとの関わり方で大切にしていることは何ですか？

A 急性期では在院日数が短く、患者さんとの関わり方の時間も限られます。患者さんの表情や声の変化など、わずかなサインを見逃さないように対応するとともに、患者さんの治療が最善となるように、多職種と連携したチーム医療を大切にしています。

Q 池田師長さんの休日の過ごし方やストレス発散の方法などあれば教えてください。

A 私の休日は、自宅でゆっくりとした時間を過ごしています。ストレス発散方法はおいしいものを食べることです。特に果物を食べるのが好きで、旬のものをいただいて、気持ちをリフレッシュしています。秋はたくさんの果物が実る時期なので楽しい季節です。

今回は 5 東病棟の池田師長へインタビューを行いました。

患者さんと長期的に関わるのが難しい急性期病院の中でも、患者さんの病状回復のために何ができるのかを一番に考え、体力的・精神的に大変な場面があっても、患者さん一人ひとりと向き合って、「丁寧な看護」を心がけていきたいということが印象に残りました。患者さんに寄り添うその気持ちは、患者さんの心の支えになっていると思います。

各科外来診療担当医師一覧表

2025.10.1 現在

曜日 診療科		月		火		水		木		金	
		午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後	午 前	午 後
一般内科	新 患	本田章子 卜部繁俊		吉村映美 延末謙一		後藤貴史		池田 徹 鋤塚磨呂		山領 豪	
	再 診	山領 豪	後藤貴史	池田 徹 卜部繁俊		延末謙一 鋤塚磨呂		本田章子 肝臓専門外来 (予約)		後藤貴史 吉村映美	
循環器内科	新 患	山佐稔彦		瀬戸 裕		山佐稔彦		山佐稔彦		瀬戸 裕	
	再 診	山佐稔彦		瀬戸 裕		山佐稔彦		山佐稔彦		瀬戸 裕	
外科	新 患	前田茂人 笠伸太郎		前田茂人 吉野恭平		岩田 亨 橋本敏章		岩田 亨 吉野恭平		橋本敏章 笠伸太郎	
	再 診	前田茂人		前田茂人 吉野恭平		岩田 亨 橋本敏章		岩田 亨 吉野恭平		橋本敏章 笠伸太郎	
乳腺・甲状腺外来			前田茂人 ○ (要確認)				岩田 亨 ○ (要確認)				橋本敏章 ※マンモグラフィー 検診のみ
整形外科	新 患	鳥越雄史 中山宗郎 樋口尚浩		今井智恵子 徳永敬介 水野聖来	馬場秀夫 (セカンドオピニオン) (第4週のみ)	徳永敬介 貞松毅大 横田 栞		馬場秀夫 田中奈津美 豊島高正		神崎衣里 磯部優作 松崎宏生	
	再 診	馬場秀夫 田中奈津美		貞松毅大 神崎衣里 樋口尚浩		鳥越雄史 今井智恵子 中山宗郎		磯部優作 松崎宏生 水野聖来		徳永敬介 豊島高正 横田 栞	
形成外科		今泉敏史		今泉敏史		今泉敏史				今泉敏史	
脳神経外科		北川直毅		高平良太郎		北川直毅		近松元気		高平良太郎 (第1・3・5週) 近松 元気 (第2・4週)	
皮膚科						(非常勤)				(非常勤)	
泌尿器科		丸田 大 スッキリ 排尿外来		前川暢秀		酒井英樹 スッキリ 排尿外来		丸田 大		前川暢秀 スッキリ 排尿外来	
眼科						長崎大学 (非常勤)				長崎大学 (非常勤)	
耳鼻咽喉科				長崎大学 (非常勤)				長崎大学 (非常勤)			
リハビリテーション科						田中奈津美 (完全予約制)				田中奈津美 (完全予約制)	
放射線科		川原康弘				川原康弘		川原康弘			
麻酔科		大路牧人 大路奈津子		大路牧人 大路奈津子		大路牧人 大路奈津子		大路牧人 大路奈津子		大路牧人 大路奈津子	

※ ○ (要確認)：予約のご相談が可能です。外科外来にご確認ください。



独立行政法人 労働者健康安全機構

長崎ろうさい病院

発行責任者 酒井 英樹

〒857-0134 佐世保市瀬戸越2丁目12番5号
TEL 0956-49-2191 FAX 0956-49-2358
www.nagasaki.johas.go.jp

受付時間 新患／午前 8:15～午前 11:00

再来／午前 8:15～午前 11:00

休診日 土・日曜・祝日 (振替休日を含む)・国民の休日
 年末年始 (12月29日～1月3日)

※救急患者はこの限りではありません。

交通案内図



【バス】西肥バス「矢峰経由柚木行」もしくは「矢峰行」に乗車【労災病院入口】にて下車
 【タクシー】佐世保駅より約20分 左石駅より約3分
 【MR松浦鉄道】左石駅・泉福寺駅より徒歩約10分